
~ D e a r ~

ひにまる

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Dear

【Nコード】

N9186Z

【作者名】

ひにまる

【あらすじ】

獣人の愛の話

エブリスタでも重複投稿してます

「よ、寄るなっ！バケモノめっ！」
「穢れた子よ、去ね！ここはお前のようなモノがいて良い場所ではないわ！」

幼い頃の夢を見る。

石を投げられ、棒で殴られた日々の夢を。
そして、優しいかあさまの夢を。

「ねえ、かあさま。どうしてわたし達はみんなと違うの？どうしてニンゲンはわたしをバケモノって呼ぶの？」

「それはね、私達がケモノだからよ。」

「でも、耳と尻尾があるだけで、他はみんなと一緒にだよ。」

「彼等にとってはそれが重要なものよ。異形を嫌い、排除する。それがニンゲンなのよ。」

「じゃあ、仲良くすることは出来ないの？」

「いいえ。父様はニンゲンだけど私を愛してくれたわよ。」

最後は決まって必ず、

「淡音、いつかきつとあなたを理解してくれる心優しい大切な人が出来るわ。だから、希望を捨てちゃ駄目よ。」

「かあさまにもいたの？大切な人。」

「ええ、あなたとあなたの父様よ。」

「えへへ、わたしもかあさま大好き！」

わたしが生まれてすぐに、とうさまは死んでしまったが、わたしはかあさまが居てくれればそれで良かった。

いつまでも、かあさまと二人、この山で暮らしていくのだと信じていた。

私が16歳になった日、母様が死んだ。

「淡音、18歳になったらあなたも一人前よ。耳と尻尾を隠し、人里において世の中を見てきなさい。それから、大切な人を、生涯の伴侶を見つけないさい。あなたならきつと良い人が見つかるわ。愛しているわ、淡音。私は先に父様、朱月さんのところへ行くけど、あなたはゆっくり来なさいね。」

私は涙で何も言うことが出来なかったが、それでも母様は満足げな顔で旅立っていった。

「ここは？」

目が覚めると見知らぬ場所。

狭い部屋に敷かれた柔らかい布団の上に寝かされていた。

「気がついたかい？」

見知らぬ男が隣の部屋からのぞきこんでいる。

「いやあ、びつくりしたよ。帰り道に女の子が倒れてるんだもん。お腹空いてる？今、軽い食事作るからさ、ちよつと待っててね。」

「はあ。」

喋るだけ喋って奥へと消えてしまった男に何も言えず、私は呆然とするしかなかった。

「良かったら事情を教えてくださいないかな？ちよつと、放っておくわけにはいかなさそうだしね。」

食事の後、そう切り出した男に、少し迷ったが私は話をすることにした。

大事な部分は隠したまま。

母様の言い付け通り、私は人里におりてきたものの、ニンゲンの接し方がわからず、なにも出来ずにさまよっていた。食べるものもなかったため、疲労と空腹で倒れていたところを男に拾われたのだろう。

話終わると男はしばらくじっとしていたが、やがて、

「君、しばらくうちで暮らさない？ プライバシーは尊重するし、衣食住は保証するよ？」

「ありがたい話ですが、私は何も返すことが出来ません。」

「別に見返りは期待してないから心配しないで欲しいな。困っている人を助けるのが我が家の家訓でね。どうだろう？」

「それでは、よろしくお願いします。」

「ん、よろしく。俺は藤白奏だ。気軽に奏でいいぞ。」

「あ、助けていただいたのに、名も名乗らず失礼しました。・・・淡音と申します。」

「あゝ、あれだ。堅苦しいのはなしでいこう。淡音は敬語禁止な。」

「奏さんがそう言うのなら、努力はしてみます。」

「よしっ、決まりだな。」

こうして、奏さんと私の共同生活が始まった。

奏さんは不思議な人だった。

ニンゲンの常識を知らず、明らかに不審な私の素性には一切触れてこないのだ。

一度、それについて聞いてみたのだが、

「別に、知ったことで何か変わるわけでもないでしょ？」

と、軽く返されてしまった。

それに、優しくて、一緒にいると日溜まりの中にいるような気分になって、いつのまにか奏さんの傍にるのが心地よくなっていた。

どんなに愛しくて、恋い焦がれてみても私と奏さんは別の“モノ”だ。

何故？どうして？ニンゲンを好きになっちゃったのだろう。

私はニンゲンからみれば異形、この耳と尻尾は、嫌悪と拒絶の対象にしかない。

そんなことは嫌というほど理解しているのに、理解していたはずなのに。

この想いはとめどなく溢れ出てくる。

貴方に優しさを向けられる度、貴方の笑顔を見る度、こんなにも貴方は優しいのに、勇気の出ない自分が恨めしい。

優しい貴方は、私を受け入れてくれるかもしれない。

そんな希望も、貴方が“ニンゲン”だから、私が“ケモノ”だからと打ち消される。

ああ、どうすれば良いのだろう。

どんなに押し込めても、どんなに消えて欲しいと願っても、この気持ちは止まってはくれない。

嫌われたくないのに、勇気が出ないのに、貴方に知って欲しくて、貴方に伝えたくて。

親愛なる奏さん。

どうか、気付いてください。

受け止めてください。

大切な、この“想い”

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9186z/>

～ Dear ～

2011年12月28日20時58分発行